

## カトリック清水教会の聖堂

1935（昭和10）年に静岡県静岡市清水区岡町の徳川家康御浜御殿地跡に建てられました。2つの尖塔にステンドグラスが埋め込まれた美しい姿が特徴で、日本の木造建築技術によって西洋の伝統的なゴシック様式を再現した希少な建築物です。教会としての役目を終え、2024年6月に取り壊されることが決定。移築再生に向けて活動が進められています。



### 聖堂の歴史と地域との歩み

- 1924（大正13）年  
フランス出身のドラエ神父が静岡教会主任司祭となる
- 1931（昭和6）年  
ドラエ神父がフランスへ帰国し、清水教会建設のための資金を調達
- 1933（昭和8）年  
（現在の静岡市清水区）入江町に最初の清水教会が発足
- 1935（昭和10）年  
ドラエ神父の私財により（現在の静岡市清水区）岡町にゴシック様式の聖堂を持つ教会が完成
- 1945（昭和20）年  
太平洋戦争の大空襲により清水が被弾  
カトリック清水教会の聖堂が負傷者の救護所となる
- 2020（令和2）年  
カトリック清水教会聖堂の閉鎖・取り壊しが決定  
維持・保存のための署名活動等が始まる
- 2022（令和4）年  
カトリック清水教会の聖堂や信徒会館の新築が決定

ご賛同いただける皆様へ 寄付のお願い

新たな場所に聖堂を移し、新たな命を吹き込むために。

移築と耐震補強のための費用について寄付を集めています。

#### <お振込み口座>

清水銀行 下野支店 普通 2152232  
一般社団法人カトリック清水教会聖堂を活かす会

移築と再生に向けてより多くの方と一緒に取り組んでいけるように、クラウドファンディングなどの準備も進めてまいります。

一般社団法人カトリック清水教会聖堂を活かす会

#### <事務局>

有限会社松永和廣設計事務所内  
〒424-0012 静岡県静岡市清水区下野西4番5号  
TEL 054-367-4774 FAX 054-367-6558

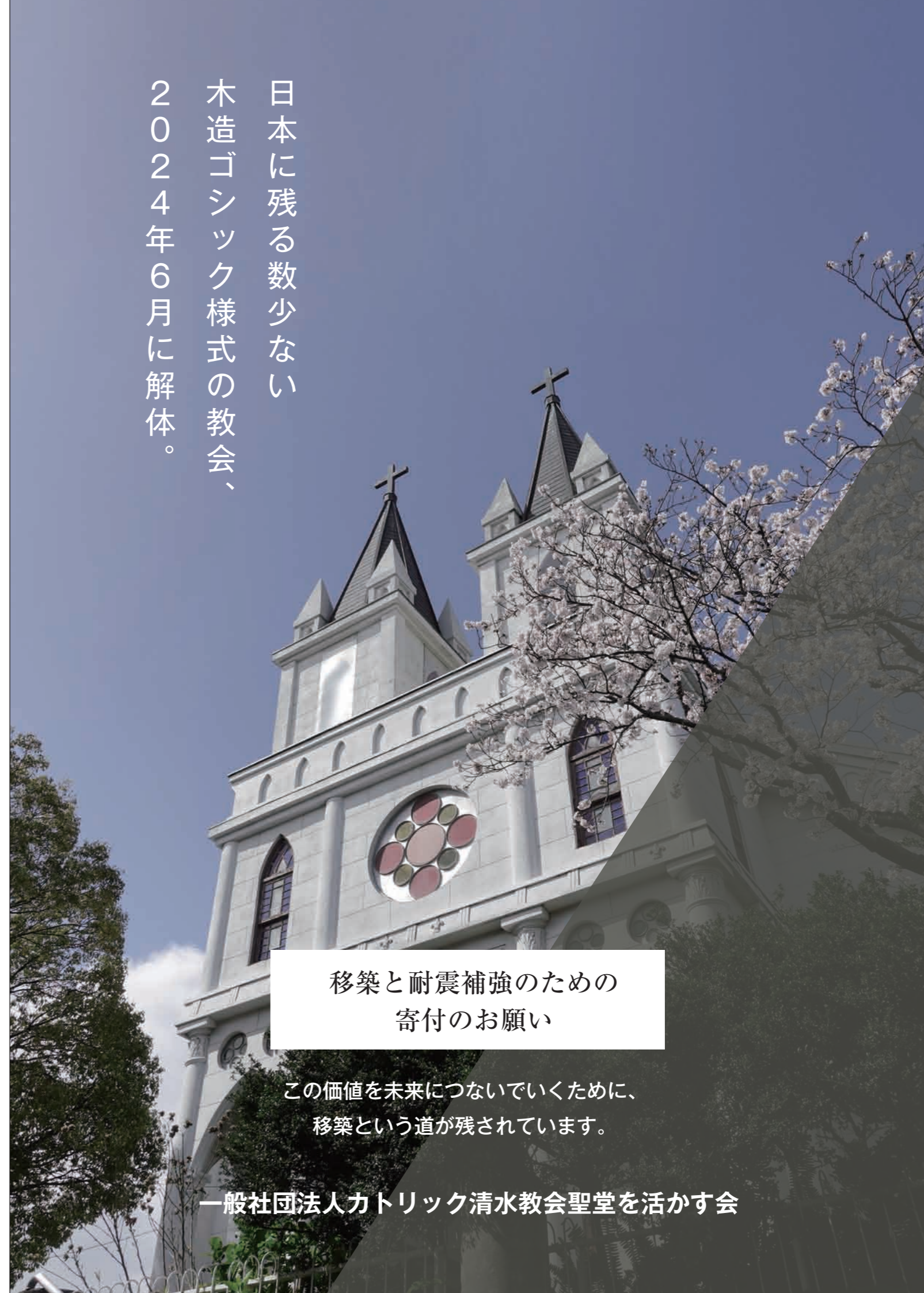


日本に残る数少ない  
木造ゴシック様式の教会、  
2024年6月に解体。

移築と耐震補強のための  
寄付のお願い

この価値を未来につないでいくために、  
移築という道が残されています。

一般社団法人カトリック清水教会聖堂を活かす会





アーチ型に象られた高い天井、  
空へと向かう美しい2つの尖塔。  
この聖堂が建築されたのは1925（昭和10）年。  
驚くべきことに、西洋で確立されたゴシック様式が  
すべて木造によって再現されているのです。  
この地に教会をつくりあげたドラエ神父の強い意思。  
日本の木造建築が新たな形態に挑んだ歴史。  
太平洋戦争の戦火を生き抜き、  
子供たちの成長を見守ってきたこの教会は、  
その信念と技術を今に伝える希少な建築物となりました。  
しかし、およそ90年に渡って  
人々の幸せを願い続けてきたこの聖堂も  
いよいよ教会としての役割を終え、  
取り壊されることになりました。  
こんなにも素晴らしい価値を、失うわけにはいきません。  
私たちが選択したのは、移築という再生の道。  
地域の遺産として残し、活かしていく道です。  
この聖堂に新たな命を吹き込み、  
歴史や文化を繋いでいくことの大切さを  
一緒に未来に伝えていきませんか。

日本の木造技術がつくり出した歴史的な建築物。  
まちの記憶が刻まれたこの聖堂を、未来に残しましょう。

壊れたものはもとに戻らない。この価値を活かせる未来が、必ずあります。

### 技術者をも魅了する建築的意匠

この教会の価値として、真っ先にあげられるのは建築的意匠の価値です。会衆席、祭壇・香部屋からなる教会は外観、内観ともに美しく、外観を見れば1階と2階の境界にはフリーズ状の帯が回り、トリグリフの装飾が施されています。室内から入口を見返せば、両開きの扉上部に尖頭アーチのステンドグラスとキリスト像。2階部分は楽廊となり、梯子が達して尖塔内のベルタワーへ。見上げる壁には薔薇窓と尖頭アーチの上下窓があり、あらゆる部分にロマネスク、ゴシックの様式の要素が見られます。昭和初期に完成し、そのすべてが木造建築によって造られたものであることを思うと実に圧巻で、建築設計者、建築技術者の心さえも奪うほどの魅力があります。

### 木造でつくられた西洋の教会

西洋で用いられる建築技術は、レンガや石材を積み上げていく組積造。カトリック清水教会の聖堂は、組積造によって確立した西洋の様式を木造に置き換えて建築したものです。つまり、西洋で生まれたキリスト教の教会を日本の木造建築技術によって完成させるという文化の融合が起こり、その歴史的建造物がここに存在しているのです。ドラエ神父が構想・設計した教会をどのように理解して建築されていったのかは明らかにされていませんが、日本の建築様式にはなかった新しい形態に対して日本の職人たちが果敢に応える姿が想像されます。



### 歴史ある場所に建つ景観としての価値

教会が建つ清水区岡町のこの敷地は、徳川家康が造営した御浜御殿の跡地と伝えられています。由緒ある地の前面道路は坂道になっており、この特徴的な場所にある教会は地域の生活の中においてもたいへんよく目立ち、人々の記憶に残る景観のひとつとなってきました。春には桜が咲き誇り、まさに日本の文化と西洋の文化が融合した美しい光景がありました。



### 戦争を経験して今に残る地域の遺産へ

太平洋戦争中の空爆と艦砲射撃によって周辺の市街地が焼失する中でも、教会は被害を受けず、負傷者を受け入れる救護所となりました。この時期にあってもドラエ神父はミサを行い、戦争の終結を祈ったと言われています。戦火をくぐり抜け、地震や大雨などの災害にも倒されることなく地域の暮らしの中であり続けた教会は、読み聞かせやコンサートなど地域の催し物にも利用される施設になりました。文化の創造に貢献してきた地域の遺産として、次の役割が期待されます。